

# 令和7年度 第1回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和7年5月13日（火）午前9時30分から11時30分まで

2 会 場 本校 会議室

## 3 出席者等

### (1) 学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校長（地域コーディネーター）

【委員②】中村町自治会長

【委員③】本校PTA会長

【委員④】あおい中村町

【委員⑤】ありんこの里副管理者

【委員⑥】大里生涯学習センター

【委員⑦】小糸製作所人事部企画課

### (2) 校内教職員

校長、副校長、事務長、各学部主事、地域支援部長、教務課長

## 4 会議次第

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 学校運営協議会委員の任命

(4) 自己紹介

(5) 協議「令和7年度学校経営計画の『目指す姿』の共有」

(6) ふれあいタイム（校内参観）

(7) 協議等

(8) 閉会

## 5 協議等内容

### (1) 校長挨拶（資料を基に説明）

・4月からの各学部の幼児児童生徒の学習活動への取り組みの様子を伝えた。

・コミュニティスクールについて

今年度、学校運営協議会の委員に新しく3名の方々を迎えた。この会は学校運営について意見をいただき、課題の解決に向けて、協議していく場である。学校と地域が学校づくりを行う機会となることに期待をしている。コミュニティスクールは幼児児童生徒にとって教育活動の充実につながり、保護者にとっても学校運営への理解が深まる。また、地域にとっては幼児児童生徒と関わることで、人とつながる楽しさや喜びを実感でき、地域の活性化にもなる。学校と地域が共生社会を担う子どもたちを育てるために、力を合わせていきたい。

### (2) 協議等

ア 令和7年度学校経営計画の「目指す姿」の共有（資料を基に説明）【校長】

・少人数の学校だからこそ一人一人が様々な経験を積むことができる強みがある。また、聴覚障害の支援について求められるニーズも高まっている。地域や家庭、関係機関と学びをつなげる学校にしたい。

・国や県の教育の方向性を取り入れ、地域ともつながりながら「教育の4本柱」を基に学校運営を行っていく。

- ・学校の経営計画書の成果目標を子どもたちと共有し、自己評価をしていく。教職員も子どもたちがどのように成長しているか、子どもの姿で評価する。
- ・沼津校、浜松校ともつながり、静岡県の聴覚障害がある子どもたちを三校で支援していきけるような力をつけていきたい。

#### イ 令和7年度学校経営計画についての意見、質問等

- ・学校内の学習だけでなく、学校外での活動や様々な年代の方と関わる機会をとおして、相手に合わせて敬語を使う話し方が身についている。学校での丁寧な言葉の指導が繋がっていると感じている。【委員③】
- ・今までの自分の職場での経験から、自立して生活できない人が多いと感じる。子どものときに自分で選択して、自己決定し、自分が決めたことに責任をもてるようにすることで、将来自立した生活を送ることにつながる。【委員④】
- ・ありんこの里は就労継続支援B型の施設で、本校の卒業生は少ない。施設では手話を使ってコミュニケーションを取っている。学校教育目標の中で、「豊かな言語力」を育てると明記されているが、日本語を育てることを大事にしているということなのか。【委員⑤】

(校長) 聴覚障害の子どもたちは、聞こえにくさによって言語力に影響が出ることがあるため、日本語の習得に力を入れている。子どもたちの苦手な部分を補い、子どもたちの実態に合わせて、意思疎通を図りながら、身振りやサイン、手話などの様々なコミュニケーション手段も身に付けられるようにしている。中学生は手話をしっかり習得して、手話でのやりとりも大事にしている。確かな学力を身に付けるために言語力に力を入れている。

- ・静岡県では平成30年3月に手話言語条例が施行され、静岡市でも令和7年4月から手話言語条例が施行された。5月11日に行われた「シズオカ×カンヌウィーク」でも手話のイベントが開催された。ぜひ、ありんこの里で行われるイベントにも参加してほしい。【委員⑤】

(校長) 本校でも手話学習会を行っている。子どもたちが自分で必要な情報を選ぶことができるように、地域のイベントの紹介など、様々な情報を提供していきたい。

- ・成果目標の欄にパーセントが表記されているが、達成された数字であるのか。【委員⑤】
- (校長) 今年度目指す成果目標のパーセンテージになっている。成果目標を数値化して、年2回教職員、幼児児童生徒、保護者で評価をしている。

#### ウ 各学部の経営方針と地域との連携について（資料を基に説明）【各部主事】

- ・幼稚部は「友達と楽しく活動し、たくさんお話をする子」を目指す。自分自身を好きになれる子になってほしい。幼稚部は年中、年長で居住地の園での交流、幼稚部全員で中原幼稚園での交流もある。学校内でも給食後の歯磨きの仕上げ磨きを中学部の生徒がやってくれたり、昼休みも小学部、中学部の児童生徒と一緒に遊んだりして人との関わりを大事にしている。地域では、中村町の公民館で行われているふれあいサロンで地域の方と一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたりして様々な人と触れ合う経験を積んでいきたい。
- ・小学部は「自分から気づき友達といっしょに取り組む子」を目指す。自分の考えや気付きを広げ、進んで問題解決するために「失敗を恐れず挑戦すること」、「あきらめないでがんばること」を学習だけでなく、朝の活動のダンスやサーキット、児童同士の話し合い活動の中でも取り入れ、体力や集中力を育てている。また、高学年は11月に行われるデフリンピックについて調べ学習を行い、沼津校、浜松校でお互いの学習についてプレゼンテーションをして交流する計画がある。さらに、「よんもくカフェ」でもPRをさせていただき、地域の方との交流もしていきたい。

- ・ 中学部は「自分で考え、協働する生徒」を目指す。学習や生活場面において、課題解決に向かって主体的に活動したり、相手の考えを正しく受け止めて自分の考えを適切に表現したりしながら協働する生徒を育てていく。「キャリア教育の充実」に向けて、生徒会を中心に学校行事の活動内容を考えたり、地域の人たちとも和太鼓やポッチャ、手話学習会などの活動で積極的に交流を行ったりしていきたい。また、卓球部の活動や野菜作りなどを地域の方からサポートしてもらえると嬉しい。生徒が自分の役割を果たし、友達と協働したり、試行錯誤したりしながらやり遂げる力を育てていきたい。

(校長) 委員の皆様には教育のパートナーとして、「目指す子どもの姿」に向けた学校教育の取り組みを支えてほしい。デフリンピックについては、日本代表選手として本校の卒業生がいる。選手との交流を通して、選手の方々の今までの経験や生き方を児童生徒に感じてほしい。また、教育活動を地域の方々と充実させていきたい。

## エ 委員からの感想等

- ・ 一昨年から学校と地域との交流が増えている。地域の人たちは幼児児童生徒との関わりに喜びを感じ、相互理解も深まる。お互いに交流することで人間性が豊かになる。「ふれあいサロン」や「よんもくカフェ」の地域の方が集まる場で児童生徒とゲームや手話、歌などの活動を行うことでお互いにとって良い社会に向かう。【委員②】
- ・ 今年度、小学部の児童が遠足で大里生涯学習センターに来館し、大里かるたを一緒にやった。センターでは、かるたを通して、地域を知ってもらうための普及事業を行っている。小学部の児童とどのようにかるたを行ったら良いのかセンターの職員で考えて、当日は教員と児童の良いあrawれを共有することができた。ホームページや広報静岡にセンターの講座や活動の情報を掲載しているため、見てほしい。【委員⑥】
- ・ 学校では教員や保護者が子どもたちのサポートをしているが、社会に出たら自分で判断して行動することが大切である。新しい環境に抵抗がある子もいる。学校の同級生だけでなく、地域の様々な方とコミュニケーションを取ることで将来、新しい環境に慣れていく。就職したときにコミュニケーションに課題を感じたり、職場に適応できなくなったりすることがある。【委員①】
- ・ 企業として部署のリーダーが職員の様子を見て、声を掛けている。職員が自分からリーダーに相談しにくい場合もある。悩みや困ったことを職場の先輩に伝えられる、相談しやすい環境づくりを行っている。【委員⑦】
- ・ 相手に自分の聞こえにくさを理解してもらうことはなかなか難しい。コミュニケーションについてはどのように相手にしてほしいのかを自分で伝えることが大事である。様々な経験の中で、自分で気付いて行動し、失敗で終わるのではなく、その失敗をどのように改善したら良いのか、自分で考える力を学校教育の中で子どもたちが身に付けてほしい。【委員④】

### (3) 次回の学校運営協議会に向けて

- ・ 第1回学校運営協議会では、学校や子どものことを知ることができた。これから様々な情報を交換していきたい。【委員①】

(校長) 委員の皆さんから様々な意見をいただいた。これからも情報交換をしていきたい。皆様の意見を教育活動に取り入れることで学習を充実させ、一緒に共生社会を作りたい。年間4回学校運営協議会があり、次回以降も「目指す子どもの姿」を達成するために、どのように教育活動を進めているのか、進捗状況を共有しながら、学校と地域が共に成長していきたい。